

---

## Fate/stay night in HAZAMA

11

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

F a t e / s t a y   n i g h t   i n   H A Z A M A

### 【Nコード】

N 4 2 7 8 N

### 【作者名】

1 1

### 【あらすじ】

処女作です。

この度調子に乗ってフェイトとまさかのブレイぶるーの二次創作を作ってみました。不定期更新ですがよろしくお願いします。

## エピソード

ここは何処だろうか？

辺りは赤、紅、そして黒、丸い大きな黒で染められている。

誰もいない、否、誰も生きていない。皆が等しく平等に死体となつて倒れている。

そして僕は、私は、俺は、誰だろう・・・わからない、わからない、わからない。

脳をよぎるのは意味のわからない単語ばかり。

<統制機構><大尉><カグツチ><ウロボロス><六英雄><蒼の魔道書><藍の魔道書><ハザマ>そして、<テルミ>

全く見に覚えのない言葉の筈なのに何故かものすごく親近感が沸く。わからない、何もわからない。

ここが何処で、自分が誰で、何でここにいて、どうして自分だけがいきているのかすらも。

辺りを見渡す。そこに二つの何かがあった。人の形をしたなにか。一つは大の男。一つはその男に寄り添うような形になった女の人。二人ともこちらに手を伸ばしている。

わからない、わからない、わからない。けれども、何故か無性に笑みが零れ落ちた。口が三日月のような形になり不気味な藍の瞳が輝きを放っていた。

「ハハハ、ハハハハ、ヒヤッハハハハ」

毀れた声すらも不気味で、辺りの景色をより一層際立たせていた。

「カカツ、これは存外に面白いモノを見つけた。此度の聖杯戦争、収穫は何もないと思うたがこれ以外。」

そんな世界に一人の化け物が足を踏み入れた。

「坊主わしとこい。悪いようにはせん。貴様に世界を見せてやる。」  
化け物は、何者でもないモノにてを差し出した。

モノは化け物の顔をしばらく見やると手をとった。そして、何者でもないモノと何百年を生きる化け物は燃え盛る死都から姿を消していった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4278n/>

---

Fate/stay night in HAZAMA

2010年10月9日14時45分発行